# 令　和　６　年　度　　一　宮　小　学　校　　総　括　評　価　表　Ⅳ（人権教育の推進）

| 自　己　評　価 | | | | | 学校関係者評価 | 次年度への課題と |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 重点課題 | 重点目標 | 評価指標と活動計画 | 評　価 | | 学校関係者の意見 | 今後の改善方策 |
| | | 評　価　指　標 | 評価指標による達成度 | 総　合　評　価 | | |
| 互いに支え合い励まし合い、ともに伸びようとする仲間づくり | Ⅳ）　人権教育の推進<br><br>①　児童理解に努め、一人ひとりの児童を大切にする教育活動を推進する。<br><br>②　互いに支え合い、励まし合い、互いを大切にする仲間づくりを進める。<br><br>③　郷土の学習を進め、聞き取り学習や交流学習などを行うことから、地域に根ざした人権教育を推進する。 | ①-1　児童・保護者アンケートによる「楽しい学校」の達成率８５％以上<br><br>①-2　児童・保護者アンケートによる「思いやり」の項目の達成率８５％以上<br><br>①-3　仲間づくりとして、「ありがとうの木」に一人一枚以上カードを書く<br><br>②-1　児童・保護者アンケートによる「仲間づくり」の達成率８５％以上<br><br>②-2　異学年集団での活動を年間３回以上 実施<br><br>②-3　わくわくタイムを 月１回以上 実施<br><br>③-1　１・２年生は、年間５回以上の交流学習や地域学習を実施<br><br>③-2　３～６年生は、聞き取り学習を取り入れた地域学習を年間３回以上実施 | ①-1　「楽しい学校」の達成率は児童79%･保護者96%となり、児童の指標は目標達成率を下回った。<br><br>①-2　児童理解の「思いやり」の項目では、児童86%・保護者75%となり、どちらも指標を下回っているが、「全くできていない」と答えた児童はいなかった。しかし、「分からない」と答えた保護者が11%であった。<br><br>①-3　全学年、「ありがとうの木」に一人一枚以上、カードを書くことができた。<br><br>②-1　仲間づくりの達成率は、児童97%・保護者96%となり、どちらも指標を上回っていた。さらに「全くできていない」と答えた児童も保護者もいなかった。しかし、「わからない」と答えた保護者が4%いた<br>②-2　異学年集団での活動を年間６回実施することができた。<br>②-3　わくわくタイムは、年間19回実施することができた。<br><br>③-1　１・２年生については年間5回行った。<br><br>②-2　３年生以上の学年については、３年生は実施できたが、４年生以上では１回もしくは２回の実施となった。 | （評定）<br><br>**B**<br><br>（所見）<br><br>重点目標①については、学校全体として、評価指標を達成できていないため、今後も引き続き児童理解に努める。<br><br>重点目標②の「わくわくタイム」については、高学年が中心になって進められるようになり、内容の見直しも行った。<br>今後も、仲間づくりに努めていきたい。<br><br>重点目標③については、地域の教材や地域の人材を有効に活用することができた<br>今後も、地域の方々にご協力を頂きながら、地域の学習を進めていきたい。 | 自分が大切にされているという実感をもつことで、友達も大切にできる子どもが育つ。鋭い人権感覚を育てるためにも、本校の伝統を継承しつつ、新たな視点を取り入れ、積極的な人権教育を続けてほしい。<br><br>①　一人ひとりをよく見て、学級での問題を素早く対応していると思われる。しかし、アンケートからは、学校生活が楽しくないと感じている子どももいるようだ。少人数の利点を生かし、微妙な心の変化にも気を配っていただけるとありがたい。<br><br>②　異学年集団での活動では、低学年の児童は高学年を慕い、高学年は低学年のことを考え行動できている。<br><br>③　郷土の学習が人権教育につながっていると感じる。今後とも、児童の地域への思いや人権に対する思いを大切に考えた学習の計画を立てていってほしい。<br><br>④　毎年度、コミセンと連携して実施している防災訓練には、炊き出し訓練への参加もある。防災意識の育成にも力を入れてほしい。 | ①　学校生活が楽しいと感じる児童が減った。<br>一人ひとりの児童が1日の学校生活に達成感を持ち、問題に即座に対応できる指導体制を、引き続き考えていきたい。<br><br>②　各学年とも、異学年集団活動により、高学年から低学年に対する接し方には、思いやりのある好意的な対応が見られた。一方で、同学年間では自己主張が強くなり、自分の気持ちを押し通そうとする行動も見られ、トラブルにつながっている。引き続き、互いに尊重し合い、思いやりのある集団づくりに努める。<br><br>③　地域の方の協力で、聞き取り学習や地域学習・交流学習を行うことができた。また、地域の方の思いや願いを知ることもできた。今後も、地域に根ざした人権学習を推進していく。 |
| | | 活　動　計　画 | 活動計画の実施状況 | | | |
| | | ①-1　授業及び休み時間等、児童とのかかわりを通して、一人一人の思いや願いの把握に努め、教職員間で共通理解を図る。<br><br>①-2 「ありがとうの木」に友達のいいところや感謝の気持ちを言葉で伝え、一人ひとりを大切に尊重し合う心を養う。<br><br>②-1　朝の会や帰りの会で児童のよいところを、互いに認め合う時間を設け、温かい雰囲気の学級 づくりをすすめる。<br><br>②-2、3　子ども主体で進め、高学年が低学年にあわせた活動計画をたてる。<br><br>③　聞き取り学習や交流学習等、地域教材を核とした人権学習の充実を図る。 | ①-1　児童一人一人とかかわる機会を大切にし、教職員間においても、設定された時間だけでなく、日頃の会話を通して共通理解を図り、児童への対応に努めた。<br><br>①-2　相手に伝えたい気持ちを持続できるように、学期ごとにカードの色をかえたり、教員が児童へ言葉がけをしたりするなど、支援を行った。<br><br>②-1　互いに認め合う時間を設け、友達のよさに目を向けるようにすることで、仲間づくりを常に意識できるようにしてきた。<br><br>②-2、3　高学年が計画を立て、低学年に合わせた活動やお世話ができた。<br><br>③　低学年では、オープンスクールで秋のフェスティバルを行い、地域の人と交流を深めた。<br>中・高学年においては、総合的な学習の時間の中で「一宮小唄」「一宮城趾」「一宮橋」「木村和蔵先生」「識字学級」等、発達段階に応じて学習できた。 | | | |

「総合評価」における「評定」の基準　　A：十分達成できた、　　B：概ね達成できた、　　C：達成できなかった